

令和6年度
運営に関する計画
最終評価



大阪市立難波元町小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和 4 年度末の保護者アンケートで「学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定的な回答が 95 % であった。令和 3 年度の 89 % より 6 ポイント増加した。理由として、コロナ禍の中での教育活動も 3 年目を迎え、様々な工夫をしながら学習のみならず行事も実現できたことが考えられる。保護者へのアンケート結果にも「コロナ禍にあってもできるだけ行事を減らさない工夫が感じられる」といった声が寄せられている。このような保護者へのアンケート結果に対して、児童へのアンケート結果は次の通りであった。
 令和 4 年度末の児童アンケートで「学校は楽しいですか」の肯定的な回答が 94 % で、令和 3 年度が 98 % からすると 4 ポイント減少した。
 コロナ禍の中で児童の安全・安心を担保して教育活動を推進していることを引き続き発信していく。
- 「きまり・規則を守っている」と回答した児童は 92 % で令和 3 年度から 2 ポイント増加した。学校にあるいろいろなきまりを守ることが自分の命や友達の命を守ることにつながるという指導を全校朝会や日々の学級指導で繰り返し指導してきたことが数字に表れた。引き続き、生活指導に関する取り組みを継続し、規範意識をさらに高めていく必要がある。また、きまりがなぜあるのか、どうして守らなければならないのかといった指導を継続していく。
- 令和 4 年度は研究教科を算数とし、研究主題「わかる喜び 学ぶ楽しさ」として、授業研究を推進した。その結果、学力経年調査の標準化得点は令和 3 年度、算数 102.7 であったが令和 4 年度は算数 102.4 であった。102 を維持したというものは大きな成果であると考える。各教員の日々の授業改善と児童理解による良好な人間関係の構築。加えて、脳トレで児童の学びに向かう姿勢作りに取り組んだ事があげられる。

② 脳トレの推進

令和 2 年度、コロナ禍の影響の中で脳トレを開始。日々の百ます計算と漢字先取り学習をすることで児童の自尊感情を育むことをねらいとした。児童の脳を活性化し、学びに向かう姿勢を形成するために教職員一丸となって「脳トレ」を全学年で実践した。

令和 4 年度は「音読・計算・漢字」に取り組んだ。計算は 3 分間の百ます計算。どの計算も、昨日の自分の記録をクリアすることを目標としながら、小学校を卒業する間際までには、どの計算も 2 分を切ることを目標とした。たし算、ひき算、かけ算、わり算 B(余り無し)、わり算 A(余り有り)に取り組んだ。引き続き脳トレを推進し、児童の学びに向かう姿勢を形成していく。

【百ます計算で 2 分を切った児童の割合】

[百ます計算 種類]	年度始め	年度終わり
たし算	42%	⇒ 58%
ひき算	47.7%	⇒ 52.3%
かけ算	26.6%	⇒ 73.4%
わり算 B(余り無し)	23.4%	⇒ 76.6%
わり算 A(余り有り)	0%	⇒ 16.7%

【漢字検定試験の合格率】

○3年以上の児童が当該学年に相当する漢字検定試験を受験した。

令和4年度の合格率は86.2%であった。前年度の合格率78.2%と比べると8ポイント向上した。

※百ます計算や漢字先取り学習、音読に取り組む脳トレの活動は児童のやればできるという自己肯定感を高めるものになっている。令和4年度は朝の時間帯に位置付けて推進してきた。

○学力向上推進事業

昨年度に継いで学力推進事業をうけ、月2回程度教育アドバイザーを派遣していただいだ。

アドバイザーには、次の3点指導していただいた。

- ① 若手教員の算数授業の参観並びに指導講話
- ② 校内算数全体授業での指導講評
- ③ メンター研修での指導助言

指導教諭の指導を通して、本校の算数科の授業スタイルが確立することができた。

○「話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりしている」児童は88%であった。前年度の82%よりも6ポイント増加している。日々のいろいろな学習で話し合う活動を取り入れた事が増加した理由であろうと考える。引き続き、あらゆる学習の中で話し合いなどの言語活動を意識して取り入れていきたい。

○「一輪車や遊具を使って体を動かすことは楽しいですか」という設問に対して71%がとても楽しい、25%が楽しいと回答した。コロナ禍の中でも児童が運動に興味を持ち楽しいと感じる肯定的な回答が96%になったことは前向きに評価できると考える。今後も児童の興味関心を高めながら運動することの楽しさや喜びを体験させていきたい。

○児童の学習端末は、毎朝、起動し、心の天気を入力して一日が始まるということを基本ルーティーンとして全児童がPC操作を簡単に感じるようさせていく。そして、日々の学習でも活用を図っていく。「学校でパソコンやタブレットを使っていますか」の問い合わせに72%の児童が「ほぼ毎日使っている」と回答をしている。今後はさらに効果的な場面で活用を推進したい。

○2020年の学習指導要領の改訂後、コロナ禍もあり、教員の負担感は増す一方である。その中で、行事精選や活動の見直しを行い教員の教育環境が過度にならないようにしているところである。これまでも、ゆとりの日を設定していたが、今年度は週1回のゆとりの日を設定した。今後も確実な運用を図る。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において不登校児童の在籍が 0 となるようにする。
- ・「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の標準偏差値を 102 以上を維持する。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
2
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・「日々の授業の中で学習者用端末を利用して学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 95%以上にする。
- ・教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合（時間外勤務時間が 45 時間以内、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下）を 60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85 %以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を 85 %以上にする。

学校の年度目標

- ① 令和 6 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。

学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比6割以下の児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1人以上減少させる。
- ② 漢字検定(3年生以上)の合格率を80パーセント以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(時間外勤務時間が月45時間以内、1年間の時間外勤務時間が360時間以下)を満たす教職員の割合を50%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】に関しては、取組内容①は、指標としてあげていたアンケート結果が目標値を大きく上回ることができたためA評価とした。取組内容②③は、指標としてあげていたアンケート結果等が目標値と概ね同等か上回ることができたためB評価とした。取組内容④は、指標としてあげていたアンケート結果が目標値を大きく上回ることができたためA評価とした。

また、4つの年度目標に関しては、目標としていた数値に対して概ね同等か上回ることができたため、全体としてはA評価とした。

児童のいじめに対する意識の向上が顕著に見られ、登校を楽しいと感じている児童も増加傾向にある。しかし、中には否定的にとらえている児童もいるため、引き続き個に応じた指導・支援を継続していく必要がある。また、不登校に関しても課題があるが、不登校傾向が見られる児童に対して、チームで対応することで改善が図られ、登校できるようになったケースもあり、成果も見られた。今後も保護者はもちろん、関係機関やSC・SSWとの連携を図りながら、不登校児童の解消に努めていきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】に関しては、取組内容①は、指標としてあげていたアンケート結果が目標値を大きく上回ることができたためA評価とした。取組内容②③は、指標としてあげていたアンケート結果等が目標値と概ね同等か上回ることができたためB評価とした。取組内容④⑤は、指標としてあげていたアンケート結果等が目標値を下回ったためC評価とした。

また、5つの年度目標に関しては、目標としていた数値に対して下回るものもあったが、概ね同等か上回ることができた目標もあったため、全体としてはB評価とした。

国語科の校内研究を通して、話し合う活動の充実が図られ、指標を大きく上回り成果が上がった。しかし、体力の向上と学力における下位層への指導、支援に関しては課題が残っているため、学力・体力向上につながる児童の主体的な取組を作り上げていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】に関しては、取組内容①は、指標としてあげていたアンケート等の結果が目標値を大きく上回ることができたためA評価とした。取組内容②は、ゆとりの日の設定で早めに退勤しようとする意識が浸透し、時間外労働の抑制につながっているが、持ち帰り仕事については課題があるため、B評価とした。

また、2つの年度目標に関しては、1つめについては、ＩＣＴ機器の活用率はあがっているものの、8割以上の児童が活用している日数としては思いのほか少なく、目標数値を下回った。2つめについては、目標としていた数値を上回ることができた。この結果を踏まえ総合的に判断し、B評価とした。

学習者用端末の活用は進んできているため、学習の中での活用も含め、さらに活用を進めたい。また、業務分担の明確化を図り、業務の負担を減らしていくとともに、学校行事などの精選も進めていきたい。

今年度も地域・保護者の皆様のご理解・ご協力と教職員の努力によって、概ね今年度の目標を達成することができたと考える。今回の結果を受け、いくつかの課題が明らかになったため、今後も児童一人一人が大切にされ、安全・安心な学校を実感できる取組を継続するとともに、学力・体力向上の取組と学びを支える教育環境の充実に向け、働き方改革に関する取組も継続しながら、よりよい学校運営を推進していきたい。

大阪市立難波元町小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>① 令和6年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童理解を深め、いじめの未然防止と早期発見、早期対応をすすめる。</p> <p>指標 :</p> <p>いじめについて考える日、毎月の児童理解研修会を実施し、年度末の児童アンケートで「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する児童を85%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>きまりを守ることによって学校生活を楽しむことができたり、安全に活動をすすめることができたりするという場面を数多く経験させる。</p> <p>指標 :</p> <p>今年度末の児童アンケートで「学校に行くのは楽しい」と回答する児童を85%以上にする。</p> <p>今年度末の児童アンケートで「学校の決まりを守っている」と回答する児童を95%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校傾向のある児童の早期発見、早期対応をすすめる。</p> <p>指標 :</p> <p>児童理解研修会、スクリーニングシート、心の天気の活用を通して、新たに不登校になる児童の割合を前年度より改善させる。</p>	B

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

たてわり班活動を通して、児童の自己肯定感を高める。

指標：

たてわり遊び、たてわり清掃、オリエンテーリングを通して、年度末の児童アンケートで「自分には良いところがあると思う」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①について】

各学級での事象を対応し、管理職に報告している。児童理解研修会やいじめについて考える日で各学級の気になる児童について報告し、全教職員で共通理解した。年度末の児童アンケートで「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で、最も肯定的な意見が91.2%（年度目標より6.2%増）、肯定的な意見が99.6%になった。

【取組内容②について】

「学校に行くのは楽しい」の項目では、肯定的な意見が92.4%（年度目標より7.4%増）。「きまりを守る。」の項目では、肯定的な意見が92.1%（3%減）になった。安全に活動を進める環境づくりが少しずつではあるができてきてているが、生活見直し週間などでは、「廊下、階段の右側を歩く。」などの項目で決まりが守れていない児童が多く見られる。

【取組内容③について】

不登校傾向にある児童の情報共有を教職員で行い、改善に努めた。不登校傾向だった児童も少しずつ登校することができている。

【取組内容④について】

高学年が中心となってたてわり清掃やたてわり遊びを実施した。「自分には良いところがある。」のアンケートでは肯定的な意見が91.1%（年度目標より6.1%増）となった。

次年度への改善点

- ・ 「いじめの早期発見、防止」や「学校のきまり」については学校全体で取り組むことができている。「いじめは絶対にいけないこと」の項目で最も肯定的な意見が年度目標よりも上昇した。ただ、否定的な意見の児童がいることもあるので、日々の子どもたちの様子を見て、話をしっかりと聞き、トラブルを解消していく。「学校に行くのは楽しい」の項目では、年度目標より増加している。楽しくないと答える児童もいるので、改善していくように話を聞いたり、普段の様子をしっかりと見ていったりする必要がある。「学校のきまり」の項目では指標95%に対して、3%減少の92.1%となった。代表委員会を中心に決まりを守る取り組みを行っているので、来年度も継続して行うとともに、全体での指導、個別に声掛けを行うことが必要である。
- ・ 昨年度、不登校傾向だった児童も少しずつではあるが登校することができている。保護者と連携を取りながら、改善に向けて今後も取り組んでいく。
- ・ 「自分には良いところがある」の項目で、肯定的な意見が年度目標よりも増加したのは良い点だが、否定的な意見も約10%にのぼっている。否定的な意見の児童の様子をしっかりと見て、学級だけでなく、たてわり班活動などでもできていることなどの良いところ、良い点を伝えてあげて、自己肯定感を高めていけるようにしなければならない。

大阪市立難波元町小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比6割以下の児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1人以上減少させる。 ② 漢字検定(3年生以上)の合格率を80パーセント以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 すべての教科・領域において話し合い活動を深めるため、自分の思いや考えを書いたり、交流したりする学習を取り入れる。	
指標 : 今年度の児童アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を、令和5年度（39%）より増加させる。	A
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 全学年での研究授業・公開授業、脳トレを通して、計算力や漢字能力などの基礎学力と書く力を高める指導法のあり方を模索する。	B
指標 : 今年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率6割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。	

<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C-NET、日本語指導サポーターと連携した授業を進めるとともに、デジタル教科書の活用を図る。</p> <p>指標 :</p> <p>今年度末の児童アンケートで「外国語(英語)の学習は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。</p> <p>「国語の授業の内容はわかりますか」に対して肯定的な回答をする日本語の指導が必要な児童の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>本校の特色である一人一台の一輪車をさらに活用するために「一輪車月間」を設け、体を動かすことの楽しさを経験させる。また、宿泊学習で多様な体験を通して健やかな心と体を育成する。</p> <p>指標 :</p> <p>今年度末の児童アンケートで「一輪車や遊具を使って体を動かすことが楽しかった」と回答する児童を90%以上にする。</p>	C
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>漢字の定着を図るために漢字の先取り学習に取り組む。</p> <p>指標 :</p> <p>漢字検定(3年生以上)合格率を80パーセント以上にする。</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①について】</p> <p>国語科の学習を中心に自分の考えを書く活動、それをペアやグループ、全体の場で発表する活動を取り入れてきた。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、55.3%と、昨年度の39%を大きく上回った。高学年は46.7%、中学年は53.9%、低学年は65.3%、と昨年と比べ、学年に関係なく「最も」に回答する割合が大幅に増加した。伝え合いカードなどの支援ツールの作成、普段から対話を意識した学習展開を学校全体で取り組んだ成果だと考える。また、どのように伝え合いをするのかのゴールが明確にあることも要因だと考えられる。</p>	
<p>【取組内容②について】</p> <p>今年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率6割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させるにおいては、4年生は国語17人から6人に減少、算数6人から7人に増加。5年生は国語5人から6人、算数5人から11人に増加。6年生は国語8人から12人に増加、算数13人から9人に減少。学年や教科により違いはあるが、全体的に増加傾向にある。</p>	
<p>【取組内容③について】</p> <p>「外国語(英語)の学習は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合は81.4%と、目標を上回ることができた。高学年69.4%、中学年82.8%、低学年92%と学年が上がるにつれて苦手意識が上がってきている。また、日本語の指導が必要な児童は、日本語指導サポーターと連携することで少しずつ国語の学習に参加できるようになってきている。しかし、日本語指導教室の時数、日本語指導サポーターの人員が足りていないのが現状である。</p>	

【取組内容④について】

「一輪車や遊具を使って体を動かすことが楽しかった」と回答する児童が中間評価において82%だったのに対し、最終評価は85%に上がった。低中学年では、90%を達成することができたが、高学年は72%だった。また、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」を回答する児童の割合は75%以上にするという項目では、74%と目標を1%下回った。3学期に体力向上週間を実施し、多くの児童が休み時間に一輪車やボール遊びをして楽しむことができた。しかし、休み時間に外に出て遊ぶ児童は固定化されており、年間を通して毎休み時間に多くの児童が外に出て、身体を動かしているとは言えない。

【取組内容⑤について】

漢字検定(3年生以上)合格率は、75%と、目標の80%を達成することができなかつた。

「漢字の先取り学習」について、「脳トレ」の実施形態変更に伴い、4月から継続しては行っていない。その中で昨年度と同様に「単漢字の学習」→「用法の確認」という流れで進めた結果、昨年度より「用法の確認」の練習回数が少ない現状が見られた。

次年度への改善点

- ・取り組み内容①について、更に伝え合う力を高めるため、次年度も自分の考えを書く活動、ペア・グループ・全体での交流活動を継続していく。「最も」に回答する割合が昨年度と比べ大幅に増加した一方で、やや否定的・否定的な回答をした割合が全体の14.2%（32名）もいる。今後は否定的な回答をした児童の方にも目を向ける必要があると考える。そのため、自分の考えを書く際の個に応じた指導の在り方の検討、伝え合いカードなどの支援ツールの改善に取り組む必要があると考える。
- ・取り組み内容②について、学習に課題のある児童が増加傾向だという実態を受けて、個に応じた指導の在り方の検討が必要だと考える。
- ・取組内容③について、今後もデジタル教科書を毎時間活用し、C-NET、日本語指導サポートーと連携した授業を進めていく。
- ・取組内容④について、委員会活動を通して、「わくわく遊びカード」や「体力向上週間」など新しい取り組みを実施したが、思うような数値を出せなかった。次年度に向けてまた、児童が進んで運動したくなるような取り組みを考える必要がある。また、体力テストの結果で大阪市平均を下回っている種目が多いことが続いている現状を踏まえ、一輪車や遊具に限定せず、取り組み内容や指標の変更を検討する。
- ・取組内容⑤について、児童の母数を考慮に入れると、あと8人程度の合格者がいれば目標を達成することができる。不合格者の実態をみると、①あと数点で合格の児童②学力の実態から学年での受験級が合っていない児童の2グループに分類できる。②に対しては申し込みの際に保護者に個別の呼びかけを行っているが、保護者の理解が得られず、受験級の調整が進まない実態もある。引き続き児童の実態を見極め、保護者とともに児童自身が取り組みやすい受験級設定を行える場の設定（申し込み期間を長くとったり、個人懇談会との時期を合せたりする）を行い、自信をもって受験に臨むことができるようとする。
また、「脳トレ」での漢字の取り組みをより漢字検定を目指したものに調整をし、めあてをもって取り組むことのできる場の設定を継続して行う。

大阪市立難波元町小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(時間外勤務時間が月45時間以内、1年間の時間外勤務時間が360時間以下)を満たす教職員の割合を50%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXデジタルトランスフォーメーションの推進】 心の天気を毎日入力できるよう時間の確保をしたり、学習者用端末を日々の授業で利用したりする。 指標 : 令和6年度末の児童アンケートの「学校でタブレットを使っていますか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の過重労働を抑制するために、ゆとりの日を週1回設ける。 指標 : 業務内容の改善、見直しを進めたり、ゆとりの日には勤務時間終了後速やかに退勤したりする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【取組内容①について】 中間評価の結果を受けて全教職員に心の天気の入力や授業での活用の啓発を行った。指標の項目については、96.9%で達成することができている。ただし、最重要目標である「授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数」においては、12日であった。前年度と比較すると年間で5%増加している。また、昨年度は60%前後の月が多かったが、今年度は70%を超える月が多く増加傾向ではある。新たな原因として、活用した日数がカウントされる手順でログインしていないことがあったからであった。発達段階によって活用方法など違いはあるものの積極的に学習にICT機器を児童が活用している場面は増加している。
【取組内容②について】 <ul style="list-style-type: none"> 4月より時間外勤務時間が月45時間以内を満たす教職員の割合は6月の68%より下回ることなく推移している（1月までの集計）。月30時間以内を満たす教職員の割合が50%以上を占める月も半数以上みられた。（7・8・9・10・12・1月） 「ゆとりの日」は教職員に浸透しており、退勤時刻の1時間後にはほぼすべての教職員

が退勤している現状がみられる。ただ、持ち帰り PC の利用も多く、業務軽減の観点からは根本的な解決に至っているとは判断しづらい面もみられる。また、業務が主担当に集中しており、業務分担がなされていない現状も一部であるがみられる。

次年度への改善点

【取り組み①について】

今後も ICT 機器に触れる機会を積極的に作り活用の幅を広げていく。また、必要に応じて、これからも、新たな文具の一つとして、場面に合わせて選択できるように進めていく。さらに、故障が多いことから、取り扱いについて家庭とも連携して物の大切さについて伝えていきたい。

【取り組み②について】

業務分担の明確化をはかり、業務の負担を減らすとともに、学校行事などの更なる精選を行っていく。また、「教職員の時差勤務」制度を活用し、各教職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。